

岩木山を考える会  
2024年度総会議案書  
(確定版)



2016年9月19日 岩木山頂と種蒔苗代 藤原竹二氏撮影

日時：2024年4月7日（日）13:30～15:30  
場所：弘前市民会館中会議室（2階）

## 2024年度岩木山を考える会総会次第

日 時 : 4月7日(日) 13:30~15:30

場 所 : 弘前市民会館中会議室(2階)

次 第 :

13:30 司会による開会宣言

会長あいさつ

議長選出

13:40 議事

第1号議案 2023年度活動のまとめ

第2号議案 2023年度収支決算報告

会計監査報告

第3号議案 2024年度活動方針(案)

第4号議案 2024年度予算(案)

第5号議案 役員体制(案)

14:30 質疑応答・意見交換

15:25 議案採択

15:30 閉会宣言

終了後、この場で懇親会を予定しています。都合の許す方はお残り下さい。

## 第1号議案 2023年度活動のまとめ

### 1. 活動日誌、岩木山をめぐる情報・報告

#### 2023年

- 4月 4日(火) 第12回幹事会(小堀、金枝、藤原、荒川、竹浪、三浦)
- 4月 9日(日) 2023年度総会(出席者17名)
- 4月27日(木) 弥生ネット幹事会(竹浪・荒川)
- 4月28日(金) ゴマシジミエリア整備・観察会下見(金枝、藤原、奈良岡、松本、葛西、竹浪)
- 5月 7日(日) 第1回岩木山講座「スプリングエフェメラル観察会」10名(藤原、藤原竹、金枝、荒川、安藤、亀山、阿部、土岐、竹浪協、竹浪)
- 5月10日(水) 第1回幹事会(藤原、荒川、竹浪)
- 5月11日(木) ゴマシジミ繁殖地整備②(松本(会員)、竹浪)
- 5月19日(金) 弥生跡地観察道設定調査(松本、石戸谷、葛西(以上会員)、太田(元学芸員)、竹浪)
- 5月22日(月) 弥生跡地観察道刈払い(松本(会員)、竹浪)
- 5月26日(金) 弥生跡地観察会コース決め(市公園緑地課3名、竹浪)
- 5月26日(金) 23年度弥生ネット総会9名参加(荒川、竹浪)
- 5月31日(水) 二子沼、追子森登山道調査①・刈払い(柄沢、加藤(以上会員)、竹浪)
- 6月 4日(日) 弥生跡地コース上倒木処理(竹浪、外部者1人依頼)
- 6月 7日(水) 23年度岩木山環境保全協議会総会(小堀、竹浪)
- 6月 7日(水) 第2回幹事会(小堀、藤原、竹浪)
- 6月11日(日) 野鳥調査(弥生ネット)(飛鳥、土岐、菊地)
- 6月12日(月) ゴマシジミ繁殖地整備③(竹浪、松本)
- 6月12日(月) 毎木調査(弥生ネット)(竹浪、松本)
- 6月14日(水) 弥生跡地観察会下見(弥生ネット)(市公園緑地課3名、竹浪、松本、葛西、平山(以上、講師予定者))
- 6月17日(土) 岩木山講座②自然観察会 in 弥生の森21名参加(一般9名、市公園緑地課5名、葛西、平山、松本、市田(以上講師)、今泉、土岐、竹浪(以上、弥生ネット))
- 6月21日(水) 弥生ネット第1回幹事会(荒川、竹浪)
- 6月27日(火) 鱒ヶ沢町役場政策推進課山口氏から日程が入り28日の山行が出来なくなると電話が入る。
- 7月 1日(土) 赤倉登山道調査(竹浪、竹浪協)
- 7月 1日(土) アオモリトドマツの現況調査(竹浪)
- 7月 3日(月) 生物調査(弥生ネット)(竹浪、市田)
- 7月 5日(水) 長平湿原調査(竹浪、太田、平山、石戸谷、葛西、加藤)
- 7月 6日(木) 第3回幹事会(小堀、荒川、金枝、藤原、竹浪)
- 7月 7日(金) 弥生壁倉沢ホタル調査(小堀、竹浪純)
- 7月10日(月) ゴマシジミ繁殖地刈払い作業(竹浪)
- 7月13日(木) 弥生跡地観察会の件で公園緑地課と振り返り(竹浪)
- 7月24日(月) 弥生ネット植物調査(竹浪)
- 8月 3日(木) 弥生スキー場跡地刈払い(竹浪)
- 8月 6日(日) 追子森・二子沼登山(竹浪)
- 8月 9日(水) 第4回幹事会(小堀、藤原、荒川)
- 8月20日(日) ゴマシジミ観察会6名(藤原、藤原竹、荒川、安藤晴美、小田切峰、工藤周二)

- 8月29日(火) ポスター展示会「岩木山の植物」設営作業7名(藤原、金枝、荒川、太田、石戸谷、松本、平山)
- 8月30日(水) ポスター展示会「岩木山の植物」20名(花田、金枝、竹浪、荒川)
- 8月31日(木) ポスター展示会「岩木山の植物」52名(藤原、土岐、竹浪)
- 9月1日(金) ポスター展示会「岩木山の植物」、撤収作業37名、合計109名(藤原、土岐、荒川、金枝、太田、竹浪)
- 9月6日(水) 第5回幹事会(小堀、藤原、荒川、金枝、竹浪)
- 9月11日(月) 弥生跡地刈払い(松本、竹浪)
- 9月14日(木) 弥生跡地観察会下見 9名参加(竹浪)
- 9月15日(金) 弥生跡地刈払い(松本、竹浪)
- 9月16日(土) 自然観察会 in 弥生スキー場跡地(弘前市主催)21名参加(竹浪)
- 9月19日(火) 会報発行作業(藤原、土岐、金枝、竹浪)
- 9月21日(木) 弥生跡地刈払い(松本、竹浪)
- 9月25日(月) 弥生跡地観察会(弥生ネット主催) 11名参加(竹浪)
- 10月3日(火) 岩木山講座④下見(土岐、金枝)
- 10月4日(水) 第6回幹事会(小堀、藤原、荒川、金枝、竹浪)
- 10月7日(土) 岩木山講座④秋のキノコ汁観察会7名(土岐、金枝、竹浪)
- 10月11日(水) 工藤周二氏と岩木山講座⑥座学の打ち合わせ(竹浪)
- 10月12日(木) 自然観察会 in 弥生スキー場跡地(弘前市主催)振り返り6名(竹浪)
- 10月15日(日) 岩木山赤倉コース山行(三浦章子、他3名)
- 10月15日(日) 岩木山赤倉コース山行(加藤智雪)
- 10月16日(月) 弥生ネット幹事会5名(荒川、竹浪)
- 10月18日(水) 岩木山環境保全協議会事務局(市観光課)と懇談4名(藤原、竹浪)
- 10月24日(火) 弥生ネットで市小学校長会に対し、弥生跡地の活用アピール(竹浪)
- 11月1日(水) 第7回幹事会(小堀、荒川、小田切、金枝、藤原、竹浪)
- 11月11~12日(土、日) 東北自然保護の集い(阿部、亀山、竹浪純、竹浪協)
- 11月13日(月) 弥生ネットが弘前市へ要請(竹浪)
- 11月16日(木) 嶽ゴマシジミエリア後始末(竹浪、松本)
- 11月18日(土) 岩木山講座⑤廻堰で渡り鳥と岩木山を観る(小堀、荒川、阿部、亀山、中村、竹浪純)
- 12月2日(土) 佐藤昌明氏による白神講演会(竹浪)
- 12月6日(水) 第8回幹事会(小堀、荒川、金枝、藤原、竹浪)
- 12月10日(日) 岩木山講座⑥「岩木山のミドリシジミ類」13名参加(小堀、荒川、金枝、藤原、土岐、竹浪)
- 12月19日(火) 会報発行作業(藤原、金枝、荒川、土岐、竹浪)

## 2024年

- 1月10日(水) 第9回幹事会(小堀、荒川、金枝、藤原、竹浪)
- 1月28日(日) 岩木山西法寺森山行(竹浪)
  - 8:15 鱒ヶ沢スキー場発(ゴンドラ) → 8:30 ゴンドラ終点駅 → 11:00 西法寺森頂上 → 11:50 発
  - 12:40 ゴンドラ終点付近 → 13:20 石神様 → 14:10 スキー場駐車場着
  - 行きはスノーシュー、帰りはカンジキを使用。ほぼ無風、天候は曇り時々晴。スキー登山グループが7~8組はいただろうか。冬らしい写真が撮れた。
- 2月7日(水) 第10回幹事会(小堀、荒川、藤原、竹浪)
- 2月19日(月) 扇ノ金目山下見(竹浪、竹浪協子)
  - 8:16 大石神社発(標高290m) → 9:26 沢着(425m) → 12:30 山頂着(891m)
  - 12:34 下山 → 12:53 大休止(793m) → 14:06 沢渡り → 15:05 大石神社着

気温は6度、歩くと暑くて大変だった。山頂は立ってられないほどの強風。雪が腐り始めており、カンジキでは足が埋まって苦勞した。沢渡りは、倒木の上に雪が40cmほど積もっておりそこを渡ることになる。他は安全に往復できることが確認できた。

- 2月22日(木) 第28回写真展「私の岩木山」搬入準備(土岐、花田、藤原、飛鳥、佐藤、竹浪)
- 2月23日(金) 第28回写真展「私の岩木山」47名(土岐、花田、藤原、飛鳥、荒川、佐藤、竹浪)
- 2月24日(土) 第28回写真展「私の岩木山」74名(小堀、土岐、花田、藤原、飛鳥、荒川、竹浪)
- 2月25日(日) 第28回写真展「私の岩木山」撤収73名(土岐、花田、藤原、飛鳥、荒川、佐藤、竹浪)
- 3月6日(水) 第11回幹事会(小堀、荒川、藤原、金枝、竹浪)
- 3月9日(土) 扇ノ金目山トレッキング(竹浪純、三浦章子他友人3人、計5人)  
8:05 大石神社発(車で林道終点まで移動)→8:42 沢着→10:35 山頂着→10:50 下山→11:10 大休(820m)→12:45 林道終点着→13:00 大石神社着
- 3月20日(水) 百沢に向かう旧道、新法師の坂の頂上付近でマンサクが咲いていた。昨年より1週間ほど早い(花田)
- 3月24日(日) 扇ノ金目山山行(花田)、雪が腐ってきており、カンジキがぬかって大変だった。頂上からは、権現崎、赤倉キレットが良く見えた。(花田)
- 3月24日(日) 嶽コースから岩木山山頂(三浦章子)嶽コース入口看板はシートで覆われていた
- 3月26日(火) 弥生ネット幹事会(竹浪)
- 3月27日(水) 嶽コースをブナ林帯のところまで歩いてきた。マンサクを見ることが出来た。(藤原)
- 4月2日(火) 弥生ネット、公園緑地課との打ち合わせ(竹浪)
- 4月3日(水) 第12回幹事会(荒川、藤原、花田、竹浪)
- 4月7日(日) 岩木山を考える会2024年度総会

## 2. 2023年度のまとめ

(1) 岩木山講座・観察会を一般市民の参加のもと行う座学講座を検討する。

### 【まとめ】

今年は7回の岩木山講座を計画しました。そのうち6つの講座を実施しました。観察会を実施するにあたり、万が一の事故対策として年間の団体保険に加入しています。

### 第1回講座「スプリングエフェメラル観察会」

日時:5月7日(日)10:00~11:30

集合:岩木青少年スポーツセンター駐車場

参加者:10名

様子:青少年スポーツセンター敷地内は高低差もそこそこにあり、春先の湿地帯のために防水の長靴等が必要だ。水路沿いに真っ白に咲きだしたミズバショウ、その間にポツポツと見える臙脂色のザゼンソウを見つけて春の息吹を感じる。皆で春の訪れを岩木山の裾野で感じる事が出来て良かった。



## 第2回講座 弥生の森(弥生スキー場跡地)観察会(弘前市主催:自然観察会 in 弥生スキー場跡地)

日時:6月17日(土)10:00~12:00

集合:弥生いこいの広場駐車場

参加者:21名

様子:実施に先立ち、14日に下見を行い、注目してもらう動植物、昆虫を捕獲するトラップの取り付けなどを行った。当日はさわやかな晴天に恵まれた。弥生いこいの広場オートキャンプ場から沢に入り、カラマツ林を通り抜け作業道に出た。元畑地の開けた場所を通り、カラマツ林、シラカバ林を抜け、展望所へ。スキー場のターミナルを作るために山を削り表土を剥ぎ裸地になった場所は、今ではうっそうとした森が広がっている。クワの実を味わい、カナヘビを探しながら中央道に戻ってきた(750m程の距離)。一般参加者は4家族9人と少人数で、班に分かれずにみんなで移動したので、植物や動物の解説者からいろいろ情報を教えてもらうことができた。

7月13日に、市公園緑地課と合同で振り返りを行い、良かった点、工夫すべき点などを話し合った。

## 第3回講座 岩木山嶽ゴマシジミ観察会

日時:8月20日(日)10:00~12:00

集合:青少年スポーツセンター前

参加者:6名

様子:当日は、大雨となり、岩木青少年スポーツセンターのロビーをお借りして、講師の工藤周二さんから「ゴマシジミ他郷土の蝶について」お話を聞いた。工藤さんは、これまでに調査されたデータをスマホで示して下さり鮮明な画面で生き生きとした学びが出来た。

ゴマシジミは全国でも青森県は多産地と言われている。県内でも津軽地方に多く、南部地方は余り見られない。ゴマシジミの減少についてはゴルフ場開発の影響が大きいのでは、と。津軽の当地でも湿地でのトモロコシ畑の耕作が進み、ゴマシジミは絶滅が免れないのかもしれない。ゴマシジミにとっての環境として湿地と乾燥した土地の両方が必要である。人の手が入らないと、ヨシなどが繁茂して、ワレモコウが負けてしまう。

【質問】ゴマシジミの保護のために必要なことは何か。

【返答】市町村単位で「保護条例」を作ること。しかし、その土地が民有地だと難しい。



## 第4回講座 秋の百沢散策とキノコ汁

日時:10月7日(土)10:00~14:00

集合:百沢スキー場駐車場(下の方)

参加者:8名

様子:あいにくの雨模様の天候の中、散策を開始。花の終わりの季節でもあることから、キノコ散策が主となったが、キノコは毒キノコがほとんどで、サモダシの姿は見られなかった。今年の暑さ・小雨の影響かキノコの出が遅れたようでほとんど収穫出来ない状況だった。途中キリンソウ・ヌスビトハギ等いくつかの花を見かける事が出来た。



散策終了後、いつもお世話になっている日本野鳥の会弘前支部が管理している舞鶴荘へ各自、車で移動、舞鶴荘到着早々土岐さんが準備してくれた美味しいキノコ汁をいただきながら歓談した。

今回、一般参加の方2名が会員に加入していただいた。キノコの不作、雨に当てられた観察会とはなったが、雨に濡れた木々、植物の緑の葉が光を反射し、きれいに見えた。

## 第5回講座 廻堰大溜池で渡り鳥と岩木山を観る

日時:11月18日(土)10:00~12:00

集合:廻堰やすらぎの駐車場

参加者:7名

講師:斎藤力氏(野鳥の会弘前支部) 望遠鏡1台

観察場所:富士見湖周囲1か所、他、田んぼなどを車2台で移動

様子:時々小雨が降る中での開催だった。日本野鳥の会弘前支部の斎藤さんに案内をお願いし、解説を聞きながら多くの鳥を観察することが出来た。

最初に水田の近くに行って水田で落ち穂を食べているハクガンなどを観察した。その後廻堰に移動し、マガンやオナガガモ等の大群を観察した。オジロワシも4羽おり、色の違う1羽は幼鳥で2羽は親子とのことだった。山頂に雲がかかった岩木山も見ることが出来た。雨がひどくなってきたので駐車帯に戻ったところ雨が止み、近くのタンチョウヅル自然公園の中に入ってさらに観察を続けた。野鳥はあまり見ることができなかったがタンチョウヅルの様子を

観察した。野鳥をただ観察するだけでなく、斎藤さんから野鳥に関する様々なお話も聞けて大変楽しい観察会だった。



#### 第6回講座「岩木山のミドリシジミ類」(座学)

日時:12月10日(日)10:00~12:00

場所:弘前市民会館中会議室

参加者:13名

講師:工藤周二氏(津軽昆虫同好会)

様子:工藤さんによると、ミドリシジミ類は、日本で25種類、青森県では20種類、岩木山では19種類を確認しており、日本の中でもミドリシジミ類の宝庫といっても過言ではないとのこと。今回は、翅の色彩から、4つのグループに分けて紹介があった。

蝶の「卵の紹介」があった。講師の工藤さんが、長い調査、研究活動を通じて、一度きりの出会いだったという「(蝶の)さなぎが成虫になって羽がはえる」(羽化)の映像が映された。2010年の「アカシジミ異常大発生」の貴重な映像も紹介され、自然の神秘に触れることが出来た。

質疑が活発だった。在野の研究者の報告で、貴重な話を聞く良い機会だった。

#### 第7回講座 岩木山春の雪上観察会(中止)

3月16日(土) 講師の都合で中止とした。



(2) 写真展「私の岩木山」を行う。

#### 【まとめ】

日程 2月23日(金)~25日(日)

会場 弘前市百石町展示館 2 階第 2 第 3 展示室  
入場者数 194 名(前回 205 名) 1 日目:47 名(48 名) 2 日目  
74 名(92 名) 3 日目 73 名(65 名)

入場者内訳 会員 16 名

地域 市内 139 名、県内 45 名、県外 7 名

出展者 10 名 出展数 61 点(前回 13 名 出展数 60 点)

差し入れ 4 名(ありがとうございました)

第 28 回目の写真展は、百石町展示館で 2 回目の開催となりました。初日の金曜日に陸奥新報の記者が訪れ、土曜日の朝に写真入りで記事を掲載して下さったのが功を奏したのか、2 日目、3 日目に多くの方が訪れました。しかし、わずかに前回に及びませんでした。土曜日、日曜日共に、1 階会場でコンサートが開かれていたのが幾分影響したのかもしれませんが。東奥日報は、見た限りでは報道をしていただけませんでした。

展示作品は、テーマである岩木山の写真の他、野鳥の写真が飾られました。花の写真が少なかったようです(4 点)。当会の活動内容を写真付きで紹介し、関心を持った方が 3 名新たに入会の運びとなりました。

「展示目録」は、一日目には間に合わず、2 日目からの来場者に配布しました。前日に作成する体制を整えておくことが必要です。

来場者との交流が活発に行われました。写真出展者が来場者を案内し写真の解説をしました。来場者への対応は幹事と出展者が総出で行い、十分対応できたと思います。(資料1)



**(3) 弥生スキー場跡地の観察と学習、調査活動を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。**

## 【まとめ】

### ① 弥生跡地の自然回復調査活動

弥生ネットが 2011 年から継続している弥生スキー場跡地の自然調査活動は 13 年目を迎えました。毎木調査、動物調査、植物調査、野鳥調査で得られるデータは、弥生スキー場跡地の自然回復の状況を判断する上で貴重です。調査活動は岩木山を考える会会員が中心に進めています。調査データは弘前市公園緑地課に提供しました。調査データがほしい方は会事務局にご一報ください。

#### (ア) 野鳥調査

6 月 11 日(日)

参加者:飛鳥(幹事)、土岐(監事)、菊地(会員)(いずれも日本野鳥の会弘前支部会員)  
26 種を確認、初出なし

12 月 3 日(日)

参加者:飛鳥(幹事)、土岐(監事)、菊地(会員)(いずれも日本野鳥の会弘前支部会員)  
12 種を確認、初出なし

#### (イ) 毎木調査

6 月 12 日(月)

参加者:松本、竹浪

番号札が壊れているものもあり、一度きれいに付け替え作業をすることが必要と思われる。1 年間の伸びは 16.7mm、2010 年からの伸びは平均 266.5mm である。

12 月 9 日(土)

参加者:金枝、竹浪



壊れていた番号札を一部交換した。1年間の伸びは平均 17.6mm であった。

#### (ウ) ホタル調査

7月7日(金)

内容:跡地(壁倉沢の橋のたもと付近)にホタルが出ることを確認する。

参加者:小堀、竹浪、竹浪協

20時頃現地到着。橋付近に、ヒメボタルが10~20匹ほど光っているのを確認できた(2匹捕獲し種を確認)。その他に、おそらくゲンジボタルだと思われる光り方と飛び方をしている個体2つを見たが、捕獲できなかった。

#### (エ) 植物調査

7月24日(月)

参加者:竹浪、石戸谷、松本、堀内(みどりの協会)

弥生跡地の上から下まで広い範囲を調査した。初めて堀内氏(みどりの協会)が調査に加わってくださった。確認種数228種。新規9種(ミヤマイタチシダ、アイバソウ、ビロウドスゲ、ガンクビソウの仲間、ヤブタデ、ハエドクソウ、ヒメキンミズヒキ、アオスズラン、ハクサンチドリ)

#### (オ) 生物調査

7月3日(月)

参加者:市田(津軽昆虫同好会)、竹浪

39種を確認。うち23種が新規(クロコガネ、カツオゾウムシ、ハムシの仲間、キリギリス、ヒナバッタ、フキバッタの仲間、ヤナギハウラフシ、ヒラタアブの仲間、タニウツギメタマフシ、ハモグリバエ、アワフキムシの仲間、カイガラムシ、カスミカメムシの仲間、ツノアオカメムシ、ヒメツノカメムシ、寄生バチの仲間、ミズ、ナメクジの仲間、ヨコエビ、ルリシジミ、シヤクガの仲間、モンシロチョウ、ヤママユガの仲間)となった。これまで阿部氏が調査に当たってきたのだが、やはり自分の専門・関心の違いによって、見えるものも違ってくるのだろう。多くの方々には調査に加わっていただくことの大きさが痛感された。

調査活動は会員と幹事で行ってきましたが、活動を継続していくために協力者が必要です。会員以外にも協力していただける方がおられましたらご紹介ください。

### ② 弥生スキー場跡地の利活用に向けた取り組み

弘前市が5億円をかけて2001年に取得した弥生スキー場跡地は、大型児童館の建設が白紙となった以降、そのまま放置され23年が経ち自然の回復が進んでいます。当会は、この跡地を市民の憩いの場にできないかと考え、弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワークに参画し、その取り組みに協力してきました。

23年度は、改めて弘前市に利活用の促進を求めた要請を行うと共に、弘前市議会議員にも呼び掛けて自然観察会を開催しました。また、弘前市が主催する親子観察会にも講師を派遣し協力しました。観察会を実施するための遊歩道の整備にも取り組みました。

#### (ア) 弘前市への要請行動

11月13日(月)

小山内都市整備部長への要請行動

参加者:土岐、今泉(以上、弥生ネット代表幹事)、竹浪(弥生ネット事務局長、岩木山を考える会)

弘前市の所有地である弥生スキー場跡地の利活用については、すでに市が二つの報告書(①弥生いこいの広場隣接地利活用方策検討事業報告書(2009年)②弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会検討方策報告書(2012年))を提出している。今回の要請の主旨は、市は、この報告書に基づき、いこいの広場隣接地の利活用の方策の検討に一步踏み出してほしい、というものである。今後、所管する公園緑地課を通して、要望の具体化のめどを探っていきたい。(資料2)

#### (イ) 弥生スキー場跡地の学習観察会の実施

弥生スキー場跡地の価値を多くの市民に知ってもらうとともに、弘前市に有効な利活用政策を提起

してもらうことを目的に、学習観察会を実施している。今年も弘前市主催を 2 回と弥生ネット主催の観察会を 1 回行った。(弘前市主催の観察会のうち 1 回は岩木山講座に組み込んでいる。)

i. 自然観察会 in 弥生スキー場跡地(弘前市主催)

9月16日(土)10時~12時

参加者:21名

2班に分かれて出発。各班に植物と昆虫の専門家が配置され、子どもたちの質問にも臨機応変に答えることが出来た。天気にも恵まれ、入口の沢でしばらくヨコエビなどの水生生物を観察。その後、配布したリーフレットとルートに沿って自然観察を楽しんだ。参加した中にはカナヘビを飼っている子どももいて、カナヘビを捕まえるのにも夢中になっていた。観察会の下見の時につかまえたマムシの子どもを観察会の講師が瓶に入れて持参してくれてきた。参加者一同興味深く見てくれていた。やはり実物の展示は参加者の関心を引く。

ii. 弥生跡地観察会(弥生ネット主催)

9月25日(月)9時~12時

参加者:11名、うち市議会議員4名(竹内、樋川、工藤、三浦)、市職員2名

弥生跡地の利活用についての知見を深めてもらうために、弘前市議会議員にチラシを配布し参加を募った結果、さくら未来会派の議員3名、日本共産党の議員1名が参加した。

跡地の上から下まで大回りで歩いた。講師に元郷土館学芸員の太田氏が来てくれたので、跡地の植生の説明をたっぷりしていただいた。コースを一回りした後、ハイランドハウスの大広間で、跡地をめぐるこれまでの経過についてスライド説明を竹浪が行った。その後、太田氏から跡地の植生の特徴について話してもらった。太田氏によれば跡地の植生は、梵珠少年自然の家で見られるブナ帯中心の森や久渡寺子どもの森で見られるナラ帯中心の森とは違ったユニークな植生をしており、様々な層が一カ所で見られるという特徴を持っているということであり、もっと市民に関心を寄せてもらいたい場所だとのことだった。参加した議員からは、跡地が一般の市民に開放されていないことへの驚きの声が出され、歩道の整備などに予算をつけるべきだとの意見も出されていた。もっと多くの議員に参加してもらう工夫が必要である。

(ウ) 市内小学校の学習活動の一環として利用してもらう取り組み

市教育委員会に働きかけ、小学校校長会で跡地利用の宣伝をさせてもらっている。23年度は4月7日の弘前市小学校長会総会場で弥生跡地の自然体験プログラムを紹介した。紹介は、プログラムを作成した谷口氏にお願いした。

プログラムは、弘前市のNPO法人「つがる野自然学校」を運営している谷口哲郎氏の力を借りて作成いただいたものである(23年度総会資料に掲載)。谷口氏はこの10年来、西目屋小学校の依頼を受けて子どもたちを対象に自然体験学習を実施しており、学習のノウハウを蓄積している。今回作成していただいたプログラムは、こうした実践に裏付けられたものであった。

しかし残念ながら23年度、小学校からの申し込みはなかった。4月新年度に入ってからプログラム紹介というのでは、時期的にすでに年間スケジュールが出来上がってしまっており、新たなスケジュールを挟み込むのは難しいものと思われる。

そこで24年度に向けた説明の場をいただきたいと再び小学校校長会に申し述べ、10月24日の校長会場で説明する機会をいただいた。この場では竹浪事務局長が説明をした。その後、谷口氏から、私から説明があったことについて何人かの校長から谷口氏に連絡があったとのことである。関心を持ってもらったように思うので、24年度の申し込みを期待したい。

(エ) 観察道の整備活動

弥生スキー場跡地の価値を多くの市民に知ってもらうためには、跡地を安全に歩ける遊歩道の整備が必要である。市が主催する親子観察会にしても小学生の自然体験の場所にしても、安全な遊歩道の存在が大前提となる。

この間10年以上観察会を実施する中で、市公園緑地課との連携で一定度の整備はされてきているが、この整備は、年2回の観察会に対応したものであり、今後、市内の小学生の学習利用を想定し

た場合、ルートの特充が必要なことは明らかである。そのような視点から、23 年度は従来の親子観察会のルートの特充に加え、中央道から東側下方、スキー場ターミナル用地をめぐるルートの特充を行った。

i. 弥生跡地観察道設定調査

5 月 19 日(金)

参加者:松本、石戸谷、葛西、竹浪(以上会員)、太田(元郷土館学芸員)

弥生いこいの広場オートキャンプ場をスタート地点として「ザリガニの沢」を渡り、観察広場からどんぐりの小径に抜ける。通常はここから右折し園路 1 に出るのだが、まっすぐ陽だまり広場に入り休憩広場に抜けた。途中で邪魔な木や草を除去しながら歩いた。

ii. 弥生跡地観察道刈払い

5 月 22 日(月)

参加者:松本、竹浪

19 日に描いた新たなコース部分を、草刈り機を用いて幅 1m 程に刈払いを行った。邪魔な木を除去し歩きやすくした。

iii. 弥生跡地観察会コース決め(市公園緑地課 3 名、竹浪)

5 月 26 日(金)

参加者:市公園緑地課職員 3 名、竹浪

新たなコース部分を、市職員を案内し、今年の観察会にこのルートを使うことへの了解を得た。観察会実施前に改めて市側で刈払いをしてもらうことにした。

iv. 森の育みエリア、森に還るエリアへの遊歩道確保

9 月 11 日(月)15 日(金)21 日(木)

参加者:松本、竹浪

25 日の観察会では、このエリアを歩いてもらおうと計画し、そのための歩道確保に取り組んだ。3 日間の作業で、ほぼ歩けるコースとなった。整備の仕方によっては、多様な植物や昆虫を観察できる場所なので、引き続き今回整備した観察道の維持・拡張を行う。

#### (4) 岩木山の自然調査を進める

##### 【まとめ】

##### ① 長平登山道の湿地調査を継続して行う

例年 8 月から 9 月に実施していた調査ですが、今年は時期を変えてみようということで 7 月 5 日(水)に実施しました。参加者は、会員 5 名の他、元郷土館学芸員の太田氏の協力を得、総勢 6 名でした。8 時に鯉ヶ沢スキー場を 2 台の車に分乗して出発しましたが、道が荒れており、石神様の手前標高 600m 付近に車を置き、そこから徒歩で向かうことに。今回は、長平登山道がスキー場を通る部分の刈払いを想定し、草刈り機を持参しました。歩いていくと案の定、スキー場ゴンドラターミナル終点付近標高 850m から 880m の距離 100m ほどの区域の登山道が草に覆われ、ようやく歩けるほどの状態でした。藪をかき分けそこを通り抜け、スキー場からナラ林に入る入口に草刈り機をデポ、湿原に向かいました。

11 時過ぎに種蒔苗代(神様の池 1030m)に到着。ここでトウホクサンショウウオの卵塊を観察することが出来



ました。早めに昼食をとった後、湿原に入り調査を実施しました。湿地にある二つの沼のうち、上の沼には、硫黄分の土砂が流れ込んできており、沼の10分の1ほど埋め始めています。水は澄んでいました。下の沼は十分な水量を維持しており特に狭まっている様子は観察されませんでした。

13時半過ぎに竹浪は一足先に下山、林からスキー場への出口にデポしておいた草刈り機で登山道の藪の刈払いを実施。迷わずに歩ける広さを確保しました。後続とは鳳鳴高校遭難碑の前で合流し、16時に無事下山しました。

調査し記録したデータですが、植物を石戸谷氏に整理をしていただき119種を確認しました。トンボのヤゴを採取し、板柳在住の会員奈良岡弘治氏に同定を依頼しました。その結果、3頭ともルリボシヤンマと同定されました。(資料3)

## ② 2019年に再発見したアオモリドマツ(オオシラビソ)の調査と保護を行う

7月1日(土)、同日実施した赤倉・弥生登山道調査後に実施しました。

調査者:竹浪純

14:55 アオモリドマツが生えている場所に到達。樹体はどこも損傷することなく無事保存されていました。枝の先に葉芽がたくさんついていました。少し日当たりがよくなるように、樹体の上を覆っているナナカマドの葉を取り払っておきました。ナナカマドの枝は残しています。周りに生えているハリギリをいくらか刈払いました。

## ③ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える

### 【まとめ】

故小野晃氏の活動記録を整理する予定でしたが、手がつきませんでした。24年度30周年に向け整理を急ぐ必要があります。



## (5) 岩木山の環境保全に寄与する

### 【まとめ】

#### ① 登山道等の整備を関係機関に働きかける

##### (ア) 登山道調査の実施

今季は、追子森登山道と赤倉登山道の2本の登山道調査・整備を実施しました。追子森登山道は刈払いも兼ねて行いました。赤倉登山道は、今年も岩木スカイライン(株)のご協力を得て、無料でスカイラインとリフトを使わせてもらい、下りながら実施しました。

##### i. 二子沼・追子森登山道調査・刈払い作業

5月31日(水)

参加者:柄沢、加藤、竹浪

7:05 鱒ヶ沢スキー場駐車場から自動車1台で出発。西岩木山林道には、我々が出発する前に山菜採りの車が3台ほど入っていた。道路状況はある程度車高のある車なら入ることが出来る。天気は曇りから晴れとなり、気持ちの良い山行だった ⇒ 7:35 林道終点到着。ここから歩く。登山道入り口付近は草が繁茂していたが、少し先からは十分歩くことが出来た ⇒ 8:15 二子沼下沼通過 ⇒ 9:09 追子森入口からの登山道からの合流点着 ⇒ 10:50 追子森山頂着。昼食 ⇒ 11:25 下山開始。下りながら途中数か所、道を塞いでいる倒木を除去、道にかぶさっているササを中心にナタ、ハサミで刈払い、ごみを拾う ⇒ 14:20 二子沼着。上沼を一周する径を歩く。沼全体を眺めることが出来る。沼の景色を楽しむため、沼の近くに歩いて行ける径を整備することが課題となった ⇒ 15:10 西岩木山林道終点着 ⇒ 15:30 鱒ヶ沢スキー場駐車場着

##### ii. 赤倉登山道調査

7月1日(土)

参加者:竹浪、竹浪協

6:00 嶽温泉駐車場に車一台を存置。もう一台の車で赤倉神社へ移動⇒ 6:55 赤倉神社前を出発 ⇒ 8:30 伯母石 ⇒ 9:40 鬼の土俵 ⇒ 10:30 大開 ⇒ 11:35 赤倉御殿 ⇒ 12:10(大鳴沢源頭) ⇒ 13:10 頂上 ⇒14:30 スカイライン 8 合目 ⇒ 15:50 のバスで下山 ⇒ 16:30 嶽温泉駐車場で車を拾い赤倉神社に置いた車を取りに行き帰宅。

1315m 大開までは登山道のササはきれいに刈払われていた。大開から上は足元がほとんど見えない深い藪。笹藪のラッセルとはこのことで、足元が見えない中を歩くのは、けがの心配もしなければならない。それでも赤倉御殿までは登山道は一本道なので何とか歩ける。しかし赤倉御殿からは、視界が開けて低い灌木が続いていて、慣れていないとどこに道がついているかわからない。これは初めての登山者だったら相当戸惑うものと思われる。観音像が終わる広場からもその先に向かう入口に標識がない。マップとGPSがあれば探しながら行けるかもしれないが…

大鳴沢にはまだ大きな雪渓が残っていた。相当大きいので、対岸の登山道がわからない。どこかにピンクのリボンがあるはずなので探した。GPS で登山道の見当をつけられたので、無事雪渓を渡ることが出来たが、GPS なしでは難しいだろう。雪渓を渡って以降は、取り付けてあるザイルが痛んで切れているものもあった。付け替えが必要である。



雪渓に覆われた登山道



先が見えない登山道

これから登山者も増えることが予想される。早急に

大開から上の登山道整備は行ってほしいものだ。(その後、整備済との情報が入った。)

## (イ) 岩木山環境保全協議会総会の様子と当会の提言

### i. 岩木山環境保全協議会総会の様子

今年は統一地方選挙があったため、年度初めの開催は出来ず、6月7日、市役所会議室で開催されました。当会からは、小堀会長、竹浪事務局長が出席しました。当会から毎年行っている要望書を提出しました。

#### 議案第1号 令和4年度事業報告

お山参詣山頂警備 8/26～27 登山者の安全誘導・警備

日赤岩木山パトロール隊が中心で実施

登山道・看板等整備 百沢登山道整備のための備品を購入

#### 議案第2号 令和4年度収支決算の承認

収入 438,847(繰越金 248,846、負担金:弘前市 6万、(株)岩木スカイライン 4万、岩木山神社 4万)

支出 155,770(事業費:お山参詣の際の山頂警備 10万、百沢登山道整備 55,700、消耗品材料費 0、印刷製本費 0)

#### 議案第3号 令和5年度事業計画(案)

(1)お山参詣山頂警備 10万

(2)登山道・看板等整備 10万

(3)登山道補修原材料等購入 10万

(4)登山道マップの整備 123,077

#### 議案第4号 令和5年度収支予算(案)

収入 423,077(繰越金 283077、負担金:弘前市 6 万、(株)岩木スカイライン 4 万、岩木山神社 4 万)

支出 423,077(事業費:お山参詣の際の山頂警備 10 万、登山道・看板整備 10 万、消耗品材料費 10 万、印刷製本費(登山マップの整備)123077)

#### 議案第 5 号 大石赤倉登山道整備について

赤倉登山道の整備について津軽百年の森づくりから整備をしても良いとの意向があり、意向を受けて貸付を受け、測量を実施することになった。

整備受託者:津軽百年の森づくり

コース設定:信仰の道、修験道であった背景を重要視し必要最低限の整備にとどめる⇒上級者コースとして登山者への周知を行う。

整備程度:登山者の肩幅に触れない程度、道がわかる程度

整備期間:5 年程度

#### その他(1) 弘前市の今年度の岩木山環境保全関係事業

賃金 岩木山清掃パトロールに係る賃金 648,000(3 人×36 回/人×6000 円)

報償費 岩木山登山道整備管理に係る謝礼 700,000(嶽⇒日赤岩木山パトロール隊、弥生、大石赤倉⇒津軽百年の森づくり)

消耗品費 岩木山登山道整備管理に係る消耗品費 500,000(ハサミ・プラスチック杭等を購入し、日赤岩木山パトロール隊、津軽百年の森づくりへ提供)

委託料 岩木山山頂トイレ整備業務委託料 737,000(バイオトイレのおがくず取替年 4 回実施)

工事請負費 登山道安全管理看板設置工事 3,400,000(嶽登山道、百沢登山道、弥生登山道、嶽登山道 8 号目)

合計 5,985,000 (2022 年度 2,886,438)

#### その他(2) 「今後の岩木山の環境保全のあり方や登山道等の整備」について各団体様からのご意見

##### 日赤パトロール隊

- ・ 嶽登山道、稻荷神社付近の大木が枯れていて倒木の恐れがあり危険なので、対策をお願いしたい。
- ・ 百沢・嶽登山道の危険木の調査

##### (株)岩木スカイライン

- ・ 9 合目から鳥海山への登山道整備はどこの管轄か。

##### 岩木山を考える会

##### (別記)

主要登山道に看板を立てることになった。百沢神社入山ポストの件、赤倉登山道の整備の件など当会からも意見を出した。弥生登山道と赤倉登山道の連絡道の設置について、ルート確定の際にはまた現地で確認をすること。その際は案内をよこすとのことだった。

今回、長平登山道の整備をしている長平町会長がオブザーバーで参加した。当会から、改めて鱈ヶ沢町も含めて協議会の会員として迎えるべきとの意見を述べた。

協議会一戸会長体調不良で欠席、日赤パトロール工藤副会長が代理で議長を務めた。

#### ii. 岩木山環境保全協議会への要望に関する、当会と事務局(弘前市観光課)との懇談

10 月 18 日(水)11 時から市役所 3 階ロビーで行われ、観光課から谷淵係長、蒔苗主事が。当会から藤原、竹浪が参加しました。当会が環境保全協議会総会に提出した意見書に基づいて市の見解を求めました。市側も誠意をもって対応してくれました。参加した二人の感想は以下の通りです。

##### (感想)

1. 協議会への要望だけではなかなか市は動かないので、市長に対する直接要望が必要だと感

じた。今後、市に対する要望を整理していきたい。(竹浪)

2. 係長からは、県でも市町村がやることについて総じてもっと関わってほしい。自分たちからは何も言えない。との本音が出されていた。大会として、県に対する直接要望も必要だと思った。(竹浪)
3. おみ坂の安全確保など協議会としてすぐやるべきことなどについては、対市、体県に要望をしていくことが大事だ。(藤原)
4. 赤倉登山道の刈払いに、協議会事務局の二人が刈払い機を鬼の土俵まで持ち運んだという話を聞いて、気の毒だった。こうしたことも含めて、来年度に向けて県や市に要望をまとめて出すべきだと思った。(藤原)

大会の要望は以下の通りです。(ゴシック文字は、懇談内容、市の見解等です。)

2023年6月1日

### 2023年岩木山環境保全協議会への要望・提案

岩木山を考える会会長 小堀英憲

#### 1. 登山道整備

新たに案内看板を取り付けることになった嶽、百沢、新弥生、スカイライン 8 合目の 4 か所の看板の冬対策の必要性について指摘した。3 か所についてはブルーシートで囲う方向で検討することになった。スカイライン 8 合目の看板は壁に取り付けてあるので、どのように対策をとるか検討してみるとのことだった。

##### (ア) 赤倉登山道

###### < 要望・提案 >

- ① 登山口に、「7月中旬まで雪渓が残っており、滑落に注意」等、登山者への注意喚起の看板を立ててはどうでしょうか。これはその他の登山道にも必要な措置だと思います。
- ② 6, 7 月、大鳴沢の源頭部は登山道がはっきりしないことが多いので、リボン等目立つ標識を取り付けておく必要があります。関係者で登った方が意識してリボンを取り付けることも含め、対処をお願いします。

##### (イ) 弥生登山道

2022年7月に実施した8合目の湿地帯付近からのう回路の設定について、その後の進捗はどうなったでしょうか。

昨年10月、弘前市が弘大の鄒青穎先生に8合目から9合目にかけての耳成岩下方のトラバース部分の調査をしてもらった結果、「この登山道は今後の融雪や降雨、または地震により再び変状が生じる可能性が高いため、通行の安全が確保できるよう、利用者への注意喚起を促すことに併せて、今後の登山道整備状況に応じた必要な対策を図る必要がある」との報告を得ています。この報告にある「利用者への注意喚起」を万全に行う必要があります。

###### < 要望・提案 >

- ① 8合目の湿地帯付近からのう回路設定の進捗状況と今後の見通しをお知らせください。  
来年度の課題となった。
- ② 当面、弥生登山道入口と、頂上の弥生登山道への誘導標識の付近にトラバース部分通行時の注意喚起をする表示をすべきです。
- ③ 耳成岩の下方トラバース部分の使用をやめ、8合目からのう回路による赤倉ルートに変更する方向で協議を始めるべきです。

##### (ウ) 百沢登山道

焼止避難小屋から大沢に入り200mほど上方、滝を乗り越えるために沢の右岸を巻く部分は相変わらず危険な場所です。百沢登山道は多くの登山者が通るので、安全の確保は万全を期すべきだと思います。また、7月上旬広範囲に残っている急斜面の雪渓を運動靴などで登っている登山者がいます。登山道入口で登山者に対する注意喚起をすべきです。

このことについて、昨年、市より「百沢登山道は岩木山神社の管理となっているが、保全協議会の副会長でもあり、協議会で検討してみたい。」との見解が示されましたが、協議会での検討は行われたでしょうか。

<要望・提案>

- ① 焼止から大沢に入って200m程上部、登山道が大沢右岸を巻く部分に、太いロープ又は鎖などで身体が確保できるようにしてください。
- ② 雪渓滑落注意等の看板を入口に立ててはどうでしょうか(長平登山道入口看板が参考になります)。焼止避難小屋の壁に取り付けてもいいかとは思いますが。

今後の課題となった。

(エ)鳳鳴避難小屋から頂上に至るおみ坂部分

頂上から100mほど下の登山道を支えている材木や看板などが朽ち果てる寸前になってきています。今のところ安全上問題はないとはいえ、ここは観光客も多く通ることですし、環境維持の観点からも更新作業が必要です。

昨年、市より「必要性は理解しているが、予算確保に苦慮している。県とも相談しながら前向きに検討したい。」旨の回答がありました。現在、弘前市として岩木山をアピールするキャンペーンが行われています。キャンペーンで訪れた観光客から悪評が出ないように、是非、予算措置をお願いします。

<要望・提案>

- ① 倒れている看板や朽ち果てつつある土留めの材木などの更新、整備をお願いします。

今後順次進めていきたいとのことだった。

(オ)追子森登山道

追子森登山道と二子沼へ抜ける径が整備され、誰もが利用しやすいコースとなっています。しかし管轄が鯉ヶ沢町だということで、対応をしてもらえておりません。昨年11月当会は鯉ヶ沢町政策推進課を訪問し、環境保全協議会への参画を要請したところ、前向きに検討していただけるような雰囲気でした。是非、弘前市からも働きかけをお願いします。環境保全協議会としてこの登山道にも着目し、多くの県民の利用を促すことは有益なことだと考えます。是非、利用しやすい配慮をお願いします。

<要望・提案>

- ① 一度会員で実地踏査をしてはどうでしょうか。市の観光にも資するものと想像します。
- ② 追子森登山道入口の標識をつけてください。
- ③ パンフへの掲載をお願いします。

町役場に今年声をかけてみるとのことだった。

## 2. 焼止・鳳鳴小屋の整備

鳳鳴避難小屋については、この数年来、関係者の整備努力にもかかわらず、入口の鴨居のコンクリートの劣化、ブロックのひび割れ等老朽化が進行しています。長期的な視野であるべき姿を協議していく必要があると考えます。



百沢登山道は、岩木山登山のメイン登山道として県内外に認知されています。その途中にある焼止避難小屋については、県外客もしばしば目にするものであり、対外的にも恥ずかしくない整備がされてしかるべきだと考えます。毎年、修繕課題を多々指摘していますが、なんら対応がなされていません。昨年10月の市との懇談の場では、話し合いの場を持つことを検討したいとの意向が示されました。是非その機会を設けてください。

#### <要望・提案>

- ① 鳳鳴避難小屋、焼止避難小屋の今後について、関係者、専門家、市民を含め、短期的な対応と共に長期的にあるべき姿を意見交換する機会を設けてください。
- ② 鳳鳴避難小屋を建てた当時、取り付けられていた「鳳鳴避難小屋」の看板が、避難小屋の中に置かれたままになっていますが、歴史的なものですので是非外に取り付けてください(これは大館鳳鳴高校 OBの方からの要望でもあります)。
- ③ 焼止避難小屋は、1)コンクリートの庇の修繕をお願いします。できればもう少し幅があれば使いやすいと思います。2)多雪の時に入口を確保できるよう、入口付近の壁にスコップを取り付けていただけないでしょうか。3)小雪の時に庇に上がれるように、横に鉄の梯子を取り付けていただけないでしょうか。4)中の鉄の梯子を付け直してください。現在の木の梯子は段差が広く、女性は使いこなせないと思います。5)焼止避難小屋の掲示看板がはがれてしまっています。修繕をお願いします。

#### 順次検討していくとのこと。

### 3. 登山者の把握

登山者の把握について、Webを使った入山届のシステムの活用をする方針を持ち、去年、「QRコードを弥生、嶽、百沢の登山口に張り付けてある。」との回答をいただきました。しかし、今年2月末の時点で百沢コースの入山ポストにはQRコードが取り付けられていませんでした。取り付けいただくようお願いします。今後残りの登山道への整備も含め検討をお願いします。

岩木山神社参道横に入山ポストが置かれてあり、そこにも入山届が入っている件については、早急に対処をお願いします(今年の5/20付の入山届が投函されていました)。

#### <要望・提案>

- ① 入山ポストを、岩木山登山道残りの二つ、長平登山道と赤倉登山道に設置するとともに、QRコードの貼り付けをしてください。

百沢のポストにはQRコードを取り付ける。

赤倉登山道は、ポストがなくてもQRコードの看板を立てたらどうかこちらから提案し、検討することになった。

- ② 岩木山神社参道横に置かれてある入山ポストの撤去と新たなポストの場所の明示をお願いします。

岩木山神社とは話をしているが、別な課題があってここまで話が届かないと。今後相談するとのことだった。

### 4. 岩木山山頂トイレの件

山頂トイレの負荷をなるべく減らすために、各登山口、とりわけスカイライン8合目からの登山客に向け、トイレは済ませてから登山する旨の表示をしてはいかがでしょうか。

9月のお山参詣時に利用頻度が高まるものと思われそうですが、参詣者への携帯トイレの普及を考えてみてはいかがでしょうか。登拝者はある程度管理された状態で登山するので、携帯トイレの普及を促進する上で比較的ハードルは低いのではないのでしょうか。

#### <要望・提案>

- ① 登山口への標識を取り付ける際にトイレの件も触れてください。
- ② スカイライン 8 合目にはとりわけ目立つように掲示してください。
- ③ お山参詣時に携帯トイレ使用試行の実施をお願いします。

スカイラインと話してみるとのことだった。

#### 5. 登山者への情報提供、啓発活動の件

登山者はもちろん、岩木スカイラインを利用する観光客を視野に入れた、適切な情報提供と啓発活動が必要ではないでしょうか。また外国人登山者が増えていることから、対応が必要です。

<要望・提案>

- ① 各登山道入口に、山頂までの距離、所要時間、登山の心得・注意点、残雪時の必要装備などを記した看板の設置をお願いします。長平登山道の入口にはきちんとした看板が設置されています。こうした看板がそれぞれの登山道にもあれば、登山者にとってはとても安心できると思います。
- ② スカイライン終点リフト乗り場に、服装やトイレの注意看板を立てて下さい。
- ③ 外国人旅行客向けに看板には英語の記載もお願いします。
- ④ パンフレットに各登山道のトイレの場所の明記、携帯トイレ使用の勧めを付け加えて下さい。

#### 6. 岩木山登山道整備のあり方

各登山道の整備は、この間、民間団体に委託のような形になっています。しかし、いざ事故が発生した場合の責任の所在など大きな問題になりかねません。それ以前のやり方(関係者の意見・指摘に基づき、市が責任をもって整備をする。)に戻すべきだと考えます。

自治体を超えて、岩木山を一体的にとらえるという立場で、当岩木山環境保全協議会に鯉ヶ沢町や地元の団体にも加わっていただく、という方向が示されましたが、いまだに鯉ヶ沢の方々が加わった協議が行われておりません。情報交換会など、適時適切な協議が必要ではないでしょうか。

<要望・提案>

- ① 登山道の整備について、委託方式はやめ、市が中心となり整備する方式に戻してください。
- ② 鯉ヶ沢町に会員になってもらうよう働きかけてください。
- ③ 会員が自由に情報・意見を交換し合う情報交換会を年に数回、適時適切に開催してください。

自由に話し合う機会を設けることについては検討してみるとのことだった。

以上

## ② 岩木山に関する情報を会員や岩木山環境保全協議会と協力しながら市民に伝える

### (ア)「岩木山の自然」ポスター展示会

8月30日(水)～9月1日(金)の3日間、ヒロロ3階のフリースペースを利用して、展示会を開催しました。3日間の来場者は109名でした。ポスターは、一昨年、郷土館が藤崎町で岩木山をテーマにした展示会を開催した際に展示した「岩木山の植生の特徴」に係るポスター27枚を、展示会終了後、制作者の太田正文氏(元県立郷土館学芸員)より贈呈を受け、その活用方法を検討していたものです。

市からパネル11枚を借りてポスターを張り出しました。平日のためか、来場者が少なかったのですが陸奥新報が取材し31日の新聞に掲載されたため、31日からの来場者が増えました。新聞社がどれだ



け取り上げてくれるかがポイントであることと、土日に展示できればもっと多かったのかもしれない。

パネルの管理には、幹事が交代で受付に座りました。会員からの差し入れをいただきました。

### (イ) 適度な距離と斜度で景色を楽しめる追子森登山道の認知をはかる

追子森登山道は、一時、人が全く入れない廃道に近い登山道でしたが、近年、当会の会員が手を入れて立派な登山道となりました。出発地点の標高は487mで頂上は1139m、標高差が650m。距離はおおよそ6.5kmです。ゆっくり歩いて2時間半で到達する道のりで、途中、整然と揃ったブナ林を通り、コケの庭園と見まがうような様々なコケに覆われた石をすり抜け、巨大なコマツガの根元をくぐり抜けるなど、変化に富んだ景色を楽しむことが出来ます。追子森頂上からは、赤沢の向こうに岩木山スカイライン8合目ターミナルを望み、左手には西法寺森が、赤沢に沿った先には頂上がかっきりと見えます。

しかし、この登山道は鱒ヶ沢町に入っているため、現在の岩木山環境保全協議会の審議の対象外とされ、岩木山ガイドパンフにも掲載されていないのが現状です。当会は昨年、鱒ヶ沢町にこの登山道の認知と整備を求めて要請行動をしました。対応した課では、今年現地に足を運ぶと約束をしたのですが、今年は残念ながら多忙を理由に足を運んでもらうことは出来ませんでした。

当会は鱒ヶ沢町にも岩木山環境保全協議会に入っただくことを求めており、弘前市も否定的な態度ではありません。是非、この登山道が認知されるように引き続き要請を重ねたいと思います。

## ③ 繁殖地のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める

### 【まとめ】

嶽青少年スポーツセンター敷地の西の端にある、広さ300㎡程の湿地帯に、ゴマシジミの食草であるナガボノシロワレモコウが繁殖しています。この場所は少し低地となっており、以前、山の方から雪解け水が流れ込んできたため、日当たりのよい湿地を好むこの植物が繁殖したと考えられます。しかし、その後、道路に側溝が作られ、水が流れ込みにくくなったことから、徐々に乾燥化が始まり、それとともに、ススキが生え、乾燥化を促進するようになりました。

亡くなった阿部元会長は、この乾燥化を防ぐために10年以上前からこの場所のススキや灌木の刈り払いを行っていました。これに他の会員も触発されて手伝いをするようになり、現在に至っています。

今年の刈り払い作業は、4回実施されました。以下、各回の様子をお知らせします。

#### i. 4月28日(金)9:00~11:30

参加者: 金枝、藤原、奈良岡、松本、竹浪

様子: ゴマシジミ採取禁止看板2本取り付け、エリアの枯草、伐根の除去、観察会コースの確認な

どを行った。伐根除去には太い根や枝を断ち切る大型カッターが威力を発揮した。スポーツセンター所長より、植物の写真など提供していただければとの話があった。

#### ii. 5月11日(木)9:00~10:30

参加者: 松本、竹浪

様子: 伐根、枯草の除去作業を行った。ナガボノシロワレモコウが背丈10センチほどに伸びてきていた。昨年より繁殖範囲が広がっているように思われた。



23.5.11 撮影



23.6.12 撮影

iii. 6月12日(月) 9:00~10:30

参加者: 松本、竹浪

様子: 大分ヨシが伸びてきていたが、ワレモコウの繁殖も順調に進んでいた。ワレモコウを残して刈払いを行った。農村公園駐車場にゴマシジミ看板を取り付けた。

iv. 7月10日(月) 9:00~10:30

参加者: 竹浪、松本

様子: 1時間ほどかけて背を伸ばしていたヨシをハサミで一本一本刈払う。ヨシが混んでいる場所は草刈り機で刈払った。ワラビの繁殖も侮れないほどになっているので、今後、ワラビ取りを企画してシダの繁殖を抑えたい。

v. 12月9日(土)

参加者: 金枝、竹浪

様子: ゴマシジミ採取禁止看板2本を被覆材で覆い、雪害防止と太陽紫外線の日焼け防止措置をした。

#### ④岩木山登山をしながら環境保全の大切さを学ぶ。(会員対象)

##### 【まとめ】

8月6日(日) 追子森・二子沼登山

集合: 7時鯉ヶ沢スキー場駐車場

参加者: 竹浪、葛西(以上会員)、乗田(葛西氏友人、津軽植物の会)、横田(葛西氏友人、津軽植物の会)、以上4名

行程: 7:00 嶽温泉駐車場⇒7:30 追子森登山口発⇒10:35 追子森頂上⇒12:30 二子沼⇒14:30 登山口着

標高700m~750m付近の林道の上が開けているため、草木の成長が早く、歩けないほどにもなっています。一度刈払いが必要です。800mから上方は、大きな変化は見られませんでした。同様に、二子沼に向かう、上が開かれた林道も草木の伸びが目立ちます。

今回の参加者は、コケやシダ類をはじめとした植物への知見が高く、目に留まる植物を見ては同定論議に花が咲きました。その為、頂上到着まで3時間以上を要しました。晴れていたため頂上は見晴らしがよく、雄大な岩木山の山体の景色を眺めることが出来ました。頂上で昼食をとり下山し、途中二子沼に立ち寄りしました。二子沼を眺めた後、130mほど登り返して追子森登山道に戻り下山しましたが、それでも帰着時間は14時30分と、予定より30分早い到着でした。時間を気にして、二子沼の周辺を一周しませんでした。十分できたのではないかと思います。たくさんの植物に出会うことが出来た山行でした。

観察された主な植物: ジガバチソウ、キツネノボタン、ヤブハギ、ツクバネソウ、ジャコウソウ、アブラガヤ、エゾユズリハ、シノブカグマ、アオハリガネワラビ、コケシノブ、ヤマソテツ、コイチヨウランなど。



##### ⑤その他の活動・課題

クマを指定管理鳥獣に指定する動きに対する署名運動への協力要請に対して

##### 【まとめ】

23年12月に、熊森協会青森県支部から、国がクマを指定管理鳥獣に指定しようとする動きに対する署名運動への協力要請がありました。それによると、「今年青森県では595頭のクマが捕殺されています(11月末現在)が(お隣の秋田県では2252頭、全国で8241頭)、指定鳥獣となるとこのペースが加速することが予想されます。熊森協会は「このままでは早晩クマが絶滅してしまう」と危惧し、昨日から指定反対の署名活動を始めました。」とのことでした。

今年はクマによる被害が多発しており、幹事会でも話題にはなっていたのですが、具体的な対処につい

て会としての見解をまとめていませんでしたので、今年の東北自然保護の集いで基調講演をした日本自然保護協会に事務局で問い合わせしてみました。たまたま、岩木山のオオシラビソを発見してくれた若松氏が対応して下さり、次のような見解を示しました。

日本全体として考えるとやむを得ない。特に東北はやむを得ない。しかし、四国で同じような措置が取られると絶滅してしまう。個体群に対する対応が必要だ。指定管理鳥獣の制度は、対象を個体群ではなく「種」として取り扱うので一律の措置が取られかねない。ここが問題だと環境省に指摘している。

当会幹事会では、この指摘を受け議論した結果、次のような意見が出されました。「場所によっては増えすぎているところがあるのでは」「クマが出ている場所は切実な問題『守る』だけではいかないと思う」「地域、場所によって大対応を分けていく必要がある」「人間との棲み分けをする努力は必要」「我々だけでは決められない。総会でも議論が必要では」

その結果、熊森協会青森県支部からの要請について、幹事会としては「署名の『賛助団体』に加わることはしない。個人の署名はそれぞれの判断に委ねる」との結論に達し、熊森協会青森県支部に伝えました。

その後、熊森協会青森県支部からは、「賛助団体の件、真剣にご検討いただき、ありがとうございます。その結論については、皆さんの総意ですので、私からあれこれ言うことはありません。尊重いたします。引き続き一人でも多くの方が個人的に署名してくださることを期待しております。今後とも、貴協会と熊森が緩やかな連携を保っていただければと願っております。」とのメールが入りました。

引き続き、緩やかな連携を保ちながら、ともに自然保護に取り組んでいきたいと思っております。

## (6) 会報を年3回発行する。(4月、9月、12月)

### 【まとめ】

今年も会報を3回継続発行しました。

会報発行の手順ですが、企画提案を藤原幹事が行い、執筆分担をし、集まった原稿の編集を事務局長が行っています。その後、市の男女共同参画センター(ヒロロ)に幹事が集まり、印刷と封筒への封入を行っています。作成する会報は会員と関係団体・機関合わせて120部ほどです。年3回の仕事です。どなたかこれら一連の作業に協力して下さる方がおりましたらご協力ください。

一方、現在の現在の会報を通じた行事・企画の案内だけでは、会員と幹事間の迅速な情報のやり取りは十分だとは言えません。より細かな情報伝達、意見交換をするために、今後電子メールを使った伝達方法も取り入れていきたいと思っております。そのことが会の活性化につながるものと思っております。

今回の総会の案内はがきに、メールアドレスの記載欄を設けた結果、アドレスを通知して下さった会員は、26名でした。今後、岩木山を考える会のメーリングリストを発足させ、会員間の情報交換のプラットフォームにしていきたいと思っております。

岩木山を考える会の公式メールアドレスを作成しました。iwakisanwokangaeru@gmail.com(イワキサンワカンガエル@gmail.com)です。今後、岩木山を考える会事務局からの発信は、このアドレスからとしますので、よろしくお願いたします。

## (7) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)

### 【まとめ】

現在の会員数は94名です。昨年1年間で新たに会員になった方が6名いた一方で、退会者9名ありました。会発足30年となり、全体として会員の高齢化が進んでいます。幹事も徐々に新たな世代にバトンタッチしていければいいなと思っています。会議は毎月弘前市百石町展示館を基本に、毎月第一水曜日に開催しています。確保できないときは文化センターなどで行っています。幹事会は平均4~6名程度の出席です。24年度は下記の日程です。会員の皆さんもどうぞご参加ください。

幹事会開催予定日 ⇒ 5/8、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、1/8、2/5、3/5

## (8) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する

### 【まとめ】

会のホームページと Facebook のページを持っています。ホームページには、会報など保存しておきたいデータが掲載できること、フェイスブックは誰でも気軽に当会の行事を見聞きできることなどそれぞれの特徴があります。

ホームページ <http://www.iwakisan.jp/>

フェイスブックは、フェイスブックサイトから検索「New 岩木山を考える会」で見られます。

## (9) 東北自然保護の集いに参加する

### 【まとめ】

第42回東北自然保護のつどい福島集会在11月11～12日、福島県大玉村「アットホーム大玉」で開催され、東北各県から39名の参加がありました。青森県からは8名が参加、うち当会から4名が参加しました。

今回のテーマは、「再生エネルギーとの共存を考える」で、一日目の記念講演では、「大型風力発電の課題」をテーマに若松伸彦氏(日本自然保護協会)が、再エネは地球温暖化を抑制し、生態系保全にもつながることから歓迎だが、騒音、低周波の問題等環境面のトラブルに加え、大規模伐採やバードストライク等自然環境面での問題もある、と指摘。「つまりは、再エネの推進は大事だが、森林伐採を伴うようなグリーンウォッシング(見せかけの環境対策)は排除すべきというのが世界全体の強い認識」とまとめました。(参加した阿部さんの報告より)

その後、各県からの報告があり、青森県からは Protect Hakkoda から「八甲田の自然を後世に」、青森県勤労者山岳連盟から、「風力発電、青森市に大規模太陽光建設」のテーマでの報告がありました。

翌日12日は、集会アピールと各県への要望書を採択しました(資料4)。採択された要望書は、各県で知事に提出することになりましたので、当県は、「青森の自然を守る連絡会議」会長代行の鹿内博氏を通じて青森県知事に提出しました。

今年は、山形県が担当の第43回東北自然保護の集いが催される予定です。会からの参加費等の補助もあるので、是非会員の皆さんも一度参加してみませんか。詳細は9月の会報でお知らせすることになると思います。

## (10) 青森県に自然史博物館を作る運動を進める

### 【まとめ】

具体的な取り組みがありませんでした。

Facebook に「青森県に自然史博物館が欲しい！」というグループのページが開設されています(<https://www.facebook.com/groups/1129527577788189/members>)。管理者は工藤忠氏(弘高鏡ヶ丘同窓会)と中村剛之氏(弘前大学白神自然環境研究所 教授)です。自然史博物館をめぐる情報が掲載されているので、是非覗いてみてください。

## (11) 自然を破壊するような風力発電施設や太陽光発電施設の建設には反対する。

### 【まとめ】

具体的な取り組みがありませんでした。

現在、岩木山周辺には大規模風力発電施設は建設されていません。岩木山域に風力発電施設の建設が計画されたのは 2011 年の東日本大震災直後です。つがる南風力発電事業として、ベンセ湿原から十三湖方面一帯に計画が組まれました。その際に岩木山麓長平にも建設する計画が持ち上がり、当会にも説明に来たことがありました。当会は反対の立場で臨み、その後計画は立ち消えになりました。

現在、岩木山麓での大規模な風力発電や太陽光発電の施設の建設計画はないそうです(2024 年 3 月 4 日現在)。岩木山をめぐるこうした動きがないかどうか、常に情報をキャッチする必要があります。

一方、津軽半島一帯や、八甲田山ろく、下北半島などには、次々と大規模な再生エネルギー施設が建設され、現在も新たな計画が進められています。私たちは、こうした動きにも、「自然を破壊するような風力発電施設や太陽光発電施設の建設には反対する」という立場で臨んでいきたいと思えます。

## (12) 岩木山を考える会 30 周年(1994 年 4 月 1 日発足)に向けた準備をする。

### 【まとめ】

岩木山を考える会の創立は 1994 年 4 月 1 日なので、2024 年 4 月で 30 周年となります。幹事会はこの間、30 周年の節目をどのようにするかを検討してきました。様々な意見が出される中、会員の皆さんからのご意見もいただくということで、総会の案内はがきに、記念講演・レセプションについての会員の皆さんの意向を伺う設問を入れたところ、会員 97 名中、60 名の方から回答をいただきました。その結果、記念講演に参加したい 29 名、参加しない 17 名、レセプションに参加したい 15 名、参加しない 24 名でした。レセプションのような形では、実施する規模があまり大きなものにならないようです。なるべく多くの会員の方々に参加していただきたいので、記念講演後の交流をお茶会形式にして検討したいと思います。

<30 周年記念事業(案)>

#### ① 記念講演・交流会の実施

(一部) 報告:岩木山を考える会の 30 年の歴史を振り返る。

記念講演:岩木山に関わる内容で

(二部) お茶会交流会(お茶とおつまみ程度で会費なし)

来賓挨拶、テーブルスピーチ、交流

会場 観光館多目的ホールまたは市民会館大会議室

時期 秋

#### ② 30 周年記念誌の発行

構成 講演、報告の内容掲載

会員からの寄稿

年表

2024 年度中に発行

## 第2号議案 2023年度収支決算報告

第2号議案

### 2023年度 収支決算報告書

会計年度：2023年4月1日～2024年3月31日

収入の部

(単位：円)

科目	予算	決算	差引増減	備考
前年度繰越金	675,949	675,949	0	2023年度会費 ￥24,000 2024年度以降会費 ￥21,000
会費	48,000	79,000	31,000	2023年度会費 ￥52,000 2024年度以降会費 ￥27,000
寄付金	0	42,000	42,000	6件 ￥33,000 2022年度以前の会費 ￥9,000(5件)
利子	6	4	-2	
雑収入	1,000	0	-1,000	
合計	724,955	796,953	71,998	

支出の部

(単位：円)

	予算	決算	差引増減	備考
会議費	15,000	17,640	-2,640	総会および幹事会会場費・備品代
事務費	40,000	15,426	24,574	総会議案書印刷・幹事会資料コピー代
会報費	80,000	49,364	30,636	3回分印刷・用紙・封筒・送料
郵送費	20,000	22,646	-2,646	総会通知はがき他
シンポジウム	50,000	30,695	19,305	講座保険料・講師謝金・会場費
写真展	30,000	21,232	8,768	会場費・展示コーナー作成費
調査費	20,000	3,500	16,500	登山道調査および講座下見ガソリン代・ ゴマシジミ生息地刈払
予備費	469,955	81,324	388,631	東北自然保護の集い参加補助
合計	724,955	241,827	483,128	

差引収支 796,953 - 241,827 = 555,126 次年度繰越金

#### 監査報告

監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2024年 3月 31日

監事 土岐 修平

監事 佐藤 文猛





### 第3号議案 2024年度活動方針

- (1) 岩木山講座・観察会を一般市民参加のもと行う。
- (2) 写真展「私の岩木山」を行う。
- (3) 弥生スキー場跡地の観察と学習を市民と協力し行う。
- (4) 岩木山の自然調査を進める。
  - ① 岩木山に唯一残っているアオモリドマツを調査、観察し必要な保護を行う。
  - ② 弥生スキー場跡地の自然の回復調査を継続する。
  - ③ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える。
- (5) 岩木山の環境保全に寄与する。
  - ① 登山道等の整備を関係機関に働きかける。
  - ② 岩木山に関する情報を岩木山環境保全協議会と協力しながら市民に伝える。
  - ③ ミズバショウ沼のスキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める。
  - ④ 長平登山道の湿地を継続して見守る。
  - ⑤ 岩木山登山や山菜採りなどで岩木山に親しみ楽しむ。(会員対象)
- (6) 会報を年3回発行する(4月、9月、12月)
- (7) 幹事会を月一回行う(会員の参加自由)
- (8) ホームページ「岩木山を考える会」を通じて活動を発信する。
- (9) メールを利用し情報伝達を効率化する
- (10) 東北自然保護の集いに参加する。
- (11) 自然を破壊するような風力発電施設や太陽光発電施設の建設に反対する。
- (12) 岩木山を考える会 30周年(1994年4月1日発足)記念事業を実施する。

(行事予定)

- |           |  |
|-----------|--|
| 4月28日(日)  | 第1回岩木山講座:春のスプリングエフェメラル観察会 in 百沢スキー場周辺                    |
| 5月26日(日)  | ワラビ採り(百沢スキー場)  |
| 6月2日(日)   | 第2回岩木山講座:弥生スキー場跡地観察会                                     |
| 6月8日(土)   | 追子森・二子沼登山道整備・調査(会員対象)                                    |
| 6月15日(土)  | 赤倉登山道調査(スカイライン→頂上→赤倉登山道)(会員対象)                           |
| 6月30日(日)  | 岩木山のゼフィルス観察会   |
| 7月13日(土)  | 長平登山道・湿原調査・アオモリドマツ調査(スカイライン→調査活動→頂上→長平登山道(長平湿原調査))(会員対象) |
| 8月11日(日)  | 第3回岩木山講座「岩木山麓ゴマシジミ観察会」                                   |
| 8月25日(日)  | 岩木山登山(弥生コース)(会員対象)                                       |
| 9~10月     | 岩木山を考える会 30周年記念行事(講演・交流会)                                |
| 10月20日(日) | 第4回岩木山講座「秋のキノコ汁観察会」                                      |
| 11月17日(日) | 第5回岩木山講座「廻堰で渡り鳥と岩木山を観る」                                  |
| 12月8日(日)  | 第6回岩木山講座・座学「未定」  |
| 2月22~24日  | 第29回写真展「私の岩木山」於、弘前市百石町展示館                                |
| 3月8日(土)   | 岩木山百沢スキー場～焼止トレッキング(会員対象)                                 |
| 3月23日(日)  | 第7回岩木山講座「岩木山春の雪上観察会」                                     |

(作業予定)

ゴマシジミ保護地整備・刈払い

- ① 4/26(金)
- ② 5/16(木)
- ③ 5/30(ワラビ採り)(木)
- ④ 6/20(木)
- ⑤ 7/17(水)

## 第4号議案 2024年度予算

### 第4号議案

### 2024年度 予算 ~~(案)~~

会計年度：2024年4月1日～2025年3月31日

#### 収入の部

(単位：円)

科 目	決 算	予 算	備 考
前年度繰越金	675,949	555,126	2024年度会費 ￥36,000 2025年度以降会費 ￥12,000
会 費	79,000	42,000	2024年度会費納入予定額
寄 付 金	42,000	0	
利 子	4	4	
雑 収 入	0	0	
合 計	796,953	597,130	

#### 支出の部

(単位：円)

	決 算	予 算	備 考
会 議 費	17,640	20,000	総会および幹事会会場費・備品代
事 務 費	15,426	40,000	総会議案書印刷・幹事会資料コピー代
会 報 費	49,364	80,000	3回分印刷・用紙・封筒・送料
郵 送 費	22,646	30,000	総会通知はがき他
シンポジウム	30,695	50,000	講座保険料・講師謝金・会場費
写 真 展	21,232	30,000	会場費・展示コーナー作成費
調 査 費	3,500	20,000	調査および講座下見ガソリン代
予 備 費	81,324	327,130	東北自然保護の集い参加補助
合 計	241,827	597,130	

## 第 5 号議案 役員体制

### 岩木山を考える会幹事体制(2024 年度～2025 年度)

会 長	小堀 英憲			
副会長	_____			
幹 事	飛鳥 和弘	荒川 修	<u>了解を得次第追加</u>	
	金枝 壽孝	花田 一雄	藤原裕貴子(会計)	
事務局	竹浪 純(事務局長)	葛西 拓美(庶務)	武尾 照子(会計)	
会計監査	土岐 修平	佐藤 文猛		
顧 問				

## 岩木山を考える会 会則

### 第1条 名称

本会は、「岩木山を考える会」と称する。

### 第2条 目的

本会は、岩木山の自然を大切に、豊かな環境で潤いのある生活を願い、真にあるべき姿を考え、守ることを目的とする。

### 第3条 会員

本会の趣旨に同意し、会費を納入した者を会員とする。

### 第4条 組織

- 1) 会長1名、副会長1名、幹事若干名、会計監査2名、顧問若干名
- 2) 事務局は、事務局長1名、庶務若干名、会計1名からなる。
- 3) 役員は総会において選任し任期を2年とするが、再任は妨げない。

### 第5条 会計

本会の経費は、会費及びその他をもってあてる。

会計年度は4月1日より翌年3月31日迄とする。

### 第6条 事務局

本会の事務局は、会計への連絡、便宜を図る。

### 第7条 附則

本会則は、平成6年(1994年)4月1日より施行する。

本会則(改訂)は、平成10年(1998年)4月11日より施行する。

本会則(改訂)は、平成12年(2000年)4月8日より施行する。

本会則(改訂)は、平成14年(2002年)4月14日より施行する。

本会則(改訂)は、平成30年(2018年)4月8日より施行する。